

団長の独り言

「色あせない名作」

鈴木千秋

「団長の独り言」をご覧の皆様、こんにちは。
公演後の特別編として、団長の平野恒雄に代わり、今週は鈴木千秋が「独り言」を担当します。よろしくお願いいたします。

2026年1月に上演した今年最初の劇団ふあんハウス公演「夏の夜空へ 麻布公演」はお陰様で無事、成功を収めることができました。
ご来場の皆様、応援してください。ありがとうございます。

公演を終えてから1か月ちょっと。3月の今は、花粉のシーズンで、花粉症対策をしています。公演の行なわれた1月のその時期は、寒波が到来するとても寒い日でした。
出演者も舞台スタッフさんも、受付スタッフさんも、寒さ対策をしてお客様を迎える準備をしていたのが、ちよつぱり懐かしいです。

さて、「夏の夜空へ」（作・演出：平野恒雄）は、2007年5月の

初演（第13回公演）から今回（第48回公演）で5度目の公演となりました。

劇団ふあんハウスらしい昭和のような懐かしさもあり、笑いと涙と感動がちりばめられた、「夢」「希望」「勇氣」、そして「一生懸命」がテーマの、ふあんハウスの王道的作品です。

初演が19年前とは思えない、今も心に響く、まさに何年経っても色あせない名作です。

再演の度、お客様からの評判も良く、また出演者の皆様も「夏の夜空へ」を好きだと言ってくくださる方が多くいらっしゃいます。

今回の公演には、これまでに名シーン演技を演じてこられた、歴代の出演者の方々も劇場に足を運んでくださっていました。

私も大好きな作品の一つで、作品のテーマ「一生懸命」や、役として語っているセリフに共感したり、人として大切なことを教わっていると思うことが多々あります。真面目なシーンも、笑いやテンポよく進む物語も面白いのです。

そういうえば私の知人は、某有名劇団のあの作品を抑えて、

子どもと観たい、子どもに観せたい作品ナンバー1！
と言ってくさいました。
嬉しいですねえ。ありがとうございます♪

「夏の夜空へ」は、老若男女どなたが観ても楽しめる作品です。

このように皆様に愛される作品「夏の夜空へ」で、19年前の初演から現在まで、私が演じてきたのは、物語の舞台となる元天然温泉「旅館・希望の星」を訪れる謎の宿泊客・田中里美（通称・先生）。

この役は、とにかくたくさん動き、たくさんしゃべり、放出するエネルギーがかなりあります。

去年は少し体調を崩すことがあり、踊ってしゃべって、体を使う役なのにケガをしていたり、体力的にもハードでしたが、なんとか無事に終えることができて良かったです。

「里美」と、これほど長い付き合いになるのは、19年前の初演時、13年前の再演時にも、考えてもいませんでした。

次に再演するのは5年後？ 10年後？ 想像が付きませんが、近

い将来、再演ができることを願い、そしてお客様の笑顔に出会えるのを楽しみに、日々鍛錬してまいります！

今後も劇団ふあんハウスを、どうぞよろしくお願いいたします。